

# 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（詳細版）のポイント

## ①令和7年度 全国学力・学習状況調査の概要

### 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

令和7年9月

大阪市教育委員会事務局

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 調査概要

調査実施日	令和7年4月14日(月)～17日(木)
調査対象	①小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年の全児童 小学校 283校 17,661人（※小学校に義務教育学校前期課程1校を含む） ②中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年の全生徒 中学校 131校 15,391人（※中学校に義務教育学校後期課程1校を含む）
調査事項	① 児童生徒：教科調査【国語、算数・数学、理科】 / 質問調査 ② 学校：質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成をめざす、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・CBT調査（※）の導入【中学校理科】 ・生徒質問でのランダム方式の試行 ・多様な児童生徒の状況把握 ・結果公表の内容、スケジュールの改善 <small>※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム(MEXCBT)によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。</small>

### 本市の平均正答数(率)・平均IRTスコア

小学校			中学校		
国語	算数	理科	国語	数学	理科
9.1/14問 (65%)	9.3/16問 (58%)	9.3/17問 (55%)	7.3/14問 (52%)	6.9/15問 (46%)	489



## ② 教科に関する調査結果（国語）

※本資料における「全国」の数値は、「全国(公立)」の数値を掲載しています。

※各教科における全体の結果概要、成果、本資料で説明していない課題等については、  
公表資料【詳細版】に掲載しています。

R7

【小・国】目的や意図に応じて簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。  
→文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にすることが重要。

【中・国】文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題が見られた。

→物語全体の構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのようない效果につながるかなど、自分なりの意味付けをすることが重要

小学校国語  
大間2(三)

【ちらし】の二重傍線部(○)を、【調べたこと】を基に詳しく書くことができるかどうかを見る問題。

## 【調べたこと】

(本を読んで分かったこと)

- ブックカバー
  - ・何回か折るだけで、すぐに完成する。
  - ・本の大きさに合わせて包むことができる。
- ペットボトルカバー
  - ・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。

〈使ってみて分かったこと〉

- ブックカバー
  - ・よがれがつくのを防ぐことができてよかった。
  - ・落としたときに、本がきずつかなかった。
- ペットボトルカバー
  - ・水できが荷物につかなくてよかった。

## 【ちらし】

## 【正答の条件】

- ①【ちらし】の **部**を書き直し、詳しくしている。

②【調べたこと】のうち、以下のことから  
言葉や文を取り上げて書いている。  
a <本を読んで分かったこと>  
b <使ってみて分かったこと>

③ 60字以上、100字内で書いている。

【正答例】  
正 答 率  
(大阪市) 57.7%  
(全国) 61.3%

何回か折って本を包むと、ブックカバーになり、よごれがつくのを防ぐことができます。また、ペットボトルを包んで持ち運ぶこともでき、水しきが荷物につくのを防ぐことができます。(84文字)

【誤答例】

ブックカバーは、何回か折るだけで、すぐに完成し、本の大きさに合わせて包むことができます。ペットボトルカバーは、ペットボトルを包んで持ち運ぶことができます。(77文字) → 条件②bを満たしていない。

中学校国語  
大問3(四)

「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書くことができるかどうかを見る問題。

□で囲まれた部分には、兄弟  
が目的を達成できなかつた場面  
のあとに続く話が書かれています。  
あとに続く話は、「一 榎木  
の実」にはありますが、「二 鈎  
の話」にはありません。このよう  
な展開になつてることは、「二  
人の兄弟」という物語において  
どのような効果があると考えま  
すか。あなたの考えとその理由  
を具体的に書きなさい。理由を  
書く際には、物語の内容を取り  
上げて書きなさい。

## 【正答の条件】

- ① どのような効果があるのかを書いてある。  
② ①のように考えた理由を、「[ ]」部分のような  
『あとに続く話』が、『一 横木の実』にはあるが、  
『二 釣の話』にはない』という展開を踏まえて書いてある。  
③ ②について、物語の内容を適切に取り上げて書いてある。

**【正答例】**

読者の意表を突く効果がある。なぜなら、「一 檜木の実」には失敗した兄弟が、お爺さんのおかげで成功する場面が書かれているため、「二 釣の話」も同じような展開になると予想して読み進める読者が多いと思うからだ。

### 【詭答例】

「一 榎木の実」に榎木の木が出てきて、「二 釣の話」に胡桃の木が出てくることにより、読者に豊かな自然を思い浮かばせる効果がある。  
→文章の展開の効果について書くことができている。しかし、理由を書く際、物語の内容を取り上げているものの、本問で着目している展開を踏まえて、書くことができていない。



## ② 教科に関する調査結果(算数・数学)

※本資料における「全国」の数値は、「全国(公立)」の数値を掲載しています。  
※各教科における全体の結果概要、成果、本資料で説明していない課題等については、  
公表資料【詳細版】に掲載しています。

**【小・算】**目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られた。  
→様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにすることが重要。

**【中・数】**数学の用語の意味の理解に課題が見られた。

→数学の用語の意味の理解を深める活動を重視することが重要。例えば、相対度数の意味を生徒が理解できるようにするためには、大きさの異なる複数のデータの分布の傾向を考察する活動を設定し、ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて比較する場面を取り入れることを通して、相対度数の必要性と意味について理解できるように指導することが大切である。

### 小学校算数 大問1(2)

都道府県Aのプロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書くことができるかどうかを見る問題。

あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのプロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。

**【正答の条件】**  
記号をあと選び、次の①、②の全てを書いている。  
①グラフ3に着目したことを表す言葉  
②2023年の都道府県Aのプロッコリーの出荷量が、2013年より多いことを表す言葉や数



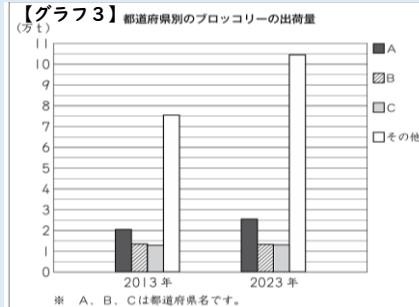
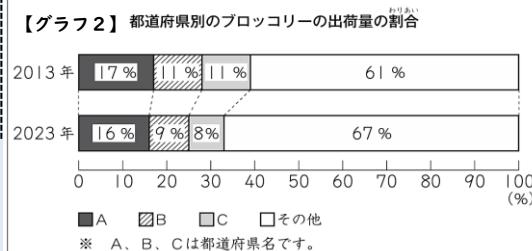
グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのプロッコリーの出荷量が、増えたかどうかがわかります。

2023年の都道府県Aのプロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかがわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。

イ 2023年は2013年より減った。



### 【正答例】

正 答 率  
(大阪市) 28.3%  
(全国) 31.0%

【記号】ア 【わけ】グラフ3を見ると、2013年の都道府県Aのプロッコリーの出荷量は約2万t、2023年の都道府県Aのプロッコリーの出荷量は約2.5万tで2023年のほうが多いからです。だから、都道府県Aのプロッコリーの出荷量は増えています。

### 【誤答例】

【ア】と解答しているが①、②全ての内容を書いていない、又は【イ】と解答している  
→【イ】と解答した場合)都道府県Aのプロッコリーの出荷量の増加を問われているが、  
グラフ3ではなくグラフ2に着目し、出荷量の割合が減っていることから、出荷量は減っていると判断していると考えられる。

### 中学校数学 大問5

ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求めることができるかどうかを見る問題。

ハンドボール投げの記録

階級(m)	度数(人)
以上未満	
5 ~ 10	3
10 ~ 15	8
15 ~ 20	9
20 ~ 25	10
25 ~ 30	6
30 ~ 35	3
35 ~ 40	1
合計	40

右の表は、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。

20m以上25m未満の階級の相対度数を求めなさい。

### 【正答例】

「0.25」と解答  
正答率…(大阪市) 33.7% (全国) 42.5%

### 【誤答例】

「10」と解答(階級の度数)…22.7%  
「4」と解答(総度数を階級の度数で割った商)…6.1%  
「30」と解答(累積度数)…7.1%

## ② 教科に関する調査結果(理科)

※本資料における「全国」の数値は、「全国(公立)」の数値を掲載しています。  
※各教科における全体の結果概要、成果、本資料で説明していない課題等については、  
公表資料【詳細版】に掲載しています。

**【小・理】電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することに課題が見られた。**

→児童が明確な目的を設定し、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正するといった活動の充実を図ることで、学んだことの意義を実感できるようすることが重要。

**【中・理】自分自身の考えを持つことと、それを表現することに課題が見られた。**

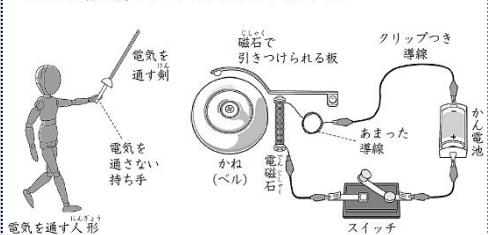
→普段から発表など他者の意見を聞き、生徒一人一人が自身の学習を振り返ることで自身の考えを表現する学習場面を設定するなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をしていくことが重要。

### 小学校理科 大問2(2)

電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶことができるかどうかを見る問題。

てつやさんといおりさんは、これまでに学習した電気の性質を利用して、フェンシングのおもちゃをつくることができないか、話しています。

これらの物を使ってつくることはできないかな。



いおりさんは、かね(ベル)が鳴るしくみについて考えています。

スイッチを入れると、  
かね(ベル)が鳴るしくみ  
になっているね。

スイッチを人形に置きかえ、  
人形に剣を当てたときだけ、  
かね(ベル)が鳴るようにしたい。

「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね(ベル)が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。1から4までのなかから一つ選んで、その番号を書きましょう。

### 【正答例】 正 答 率 (大阪市) 39.8% ( 全国 ) 42.9%

【4】と解答しているもの。

人形Aと人形Bの「電気を通さない持ち手」が回路の一部に含まれない電気の回路を選択している。この回路では、「人形Aの剣を人形Bに当てたとき」だけ電気が通る回路となっているため、電気の回路について、解決するための観察、実験の方法を発想し、表現することができていると考えられる。

### 【誤答例】

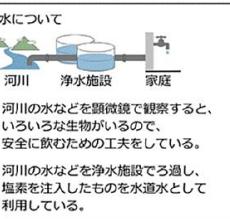
【1】と解答… 7.4% 【2】と解答… 20.2% 【3】と解答… 31.8%

### 中学校理科 大問1(6)

水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述することができるかどうかを見る問題。



Bさん



Cさん



Dさん

- 理科の実験で使用する精製水は、水道水を蒸留したりろ過したりしてつくられ、販売されている。
- 精製水とミネラルウォーターとの違いは何かを現在調べている。

探究を通じて、身近な生活とのつながりを感じたこと  
に着目して振り返ります。

…水について、…という  
ことが分かり、…について  
さらに疑問を感じたので…

↓「生じた新たな疑問」

最初は…と思っていた  
が、…という考え方になりました。

↓「自分の考え方の変化」

…での、身近な生活との関連

↓「身近な生活との関連」

上の発表を見て、水道水や精製水に対し、Bさん、Cさん、Dさんを参考にして、あなたの振り返りを書きなさい。

【正答の条件】次の条件を満たして解答している。

次の(a)と(b)～(e)いずれかを満たしているもの。

(a)水道水や精製水に対して振り返る表現となっている。

(b)(c)(d)Bさん、Cさん、Dさんの視点を参考に記述している。

(e)Bさん、Cさん、Dさん以外の視点で記述している。

下記の表(IRTバンドごとの無解答率)より、  
全体の無解答率が1.28%と、全国の無解答率より高く、特にIRTバンド1、2に属する生徒の無解答率が高い結果となっています。

	正答率	無解答率
全国(公立)	79.4%	9.9%
大阪市	72.9%	12.8%
IRT バンド (内数)		
1	9.8%	54.7%
2	51.4%	23.6%
3	85.3%	5.4%
4	95.0%	0.8%
5	99.0%	0.3%

### 【正答例】 正 答 率 (大阪市) 72.9% ( 全国 ) 79.4%

精製水は水道水を蒸留したりろ過したりして、つくられることが分かり、ミネラルウォーターはどのようにして作られているのかについてさらに疑問を感じたので、調べてみたいと思いました。

### 【誤答例】

地層からしみだした水に生物がないと思っていたが、  
生物がいるということがわかりました。  
→条件(a)を満たしていない

### ③ 質問調査結果(児童生徒)【学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組】

R7

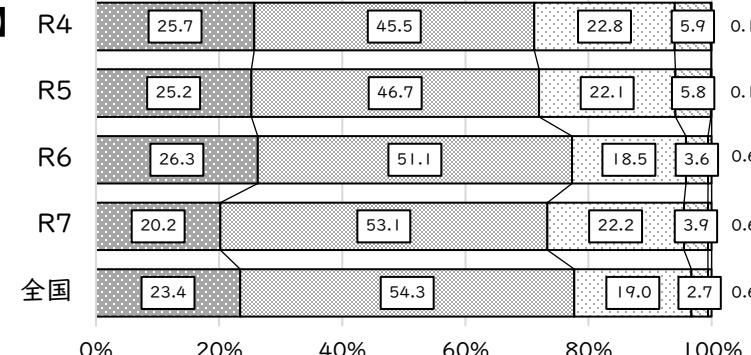
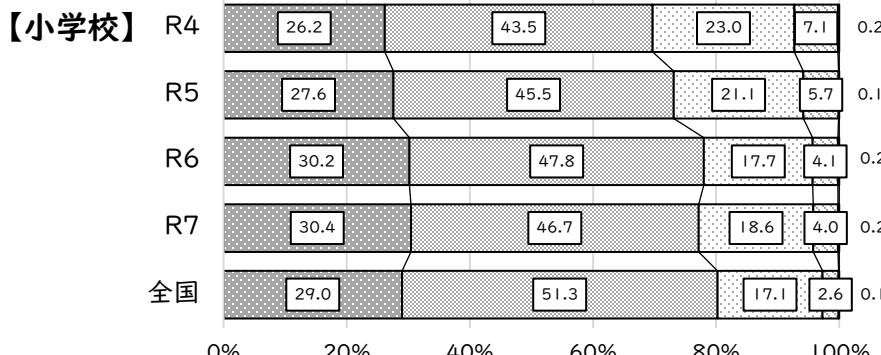
#### 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

児童生徒質問項目[32]

「5年生までに受けた授業では(1、2年生のときに受けた授業では)、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」

- 肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや減少しており、全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。
- 肯定的に回答している児童生徒ほど、小中学校ともにいずれの教科でも平均正答率(中学校理科は平均IRTスコア)が高い傾向が見られます。

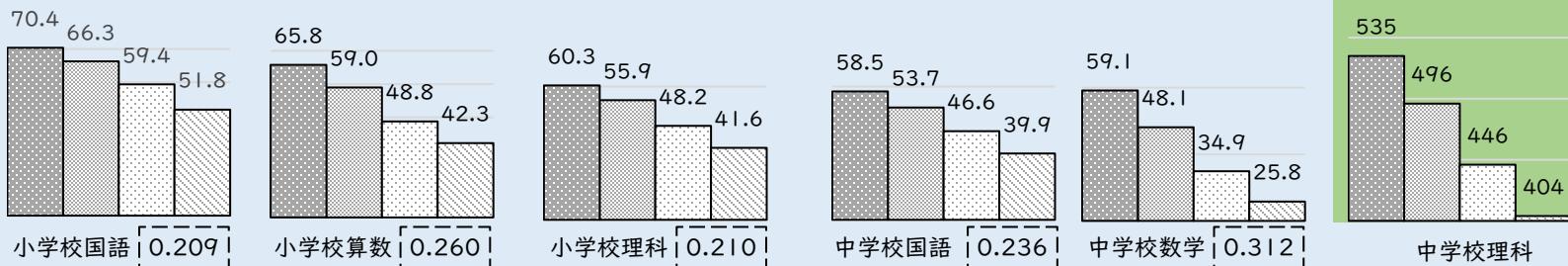
■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □その他・無回答



#### 【選択肢ごとの教科の平均正答率(中学校理科は平均IRTスコア)】

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

クロス集計



### ③ 質問調査結果(児童生徒)【学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組】

R7

#### 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

##### 個別最適な学び

「授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか。」

- 個○ 当てはまる(又は)どちらかといえば、当てはまる  
個× どちらかといえば、当てはまらない(又は)当てはまらない

##### 【三重クロス集計】

児童生徒質問項目[34] [39]

※□□□内の数値は相関係数を示しています。

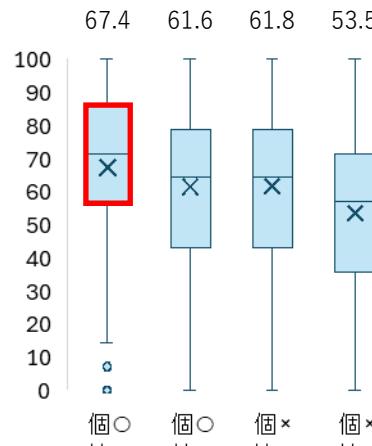
[個別最適な学び] × [協働的な学び] × [各教科の正答率]

##### 協働的な学び

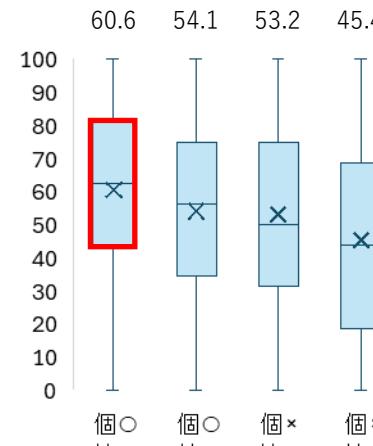
「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」

- 協○ 当てはまる(又は)どちらかといえば、当てはまる  
協× どちらかといえば、当てはまらない(又は)当てはまらない

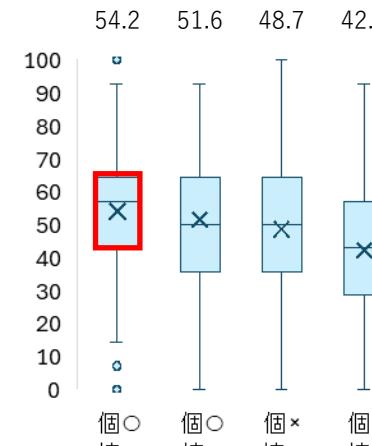
#### 【小学校国語】 [0.156]



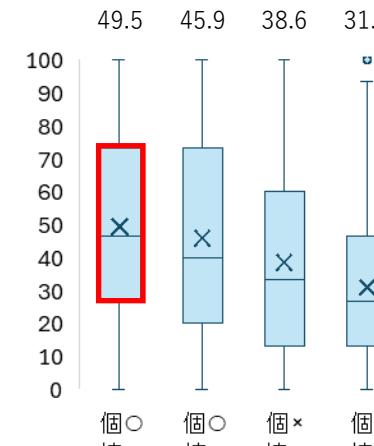
#### 【小学校算数】 [0.157]



#### 【中学校国語】 [0.156]



#### 【中学校数学】 [0.186]



「各教科の正答率」

いずれの教科においても、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ(個○協○)は、正答率を表す箱ひげ図が最も上の位置(正答率が高い位置)にあり、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ(個○協○)の正答率は、他のグループの正答率よりも高い傾向が見られます。

### ③ 質問調査結果(児童生徒)【ICTを活用した学習①】

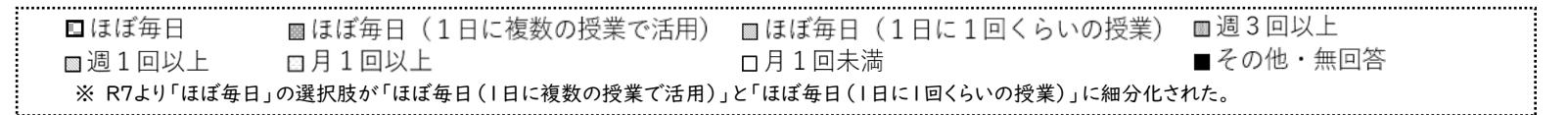
R7

#### ICTを活用した学習状況

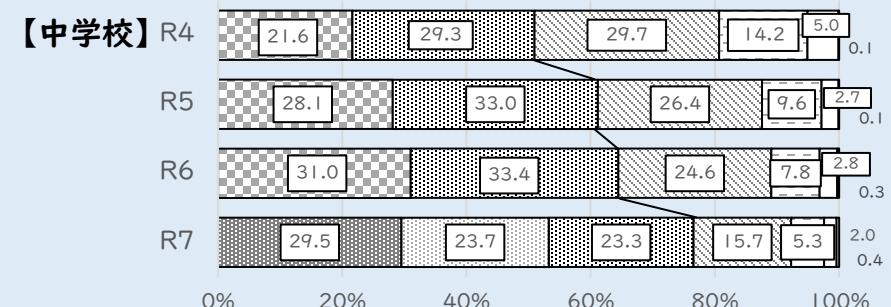
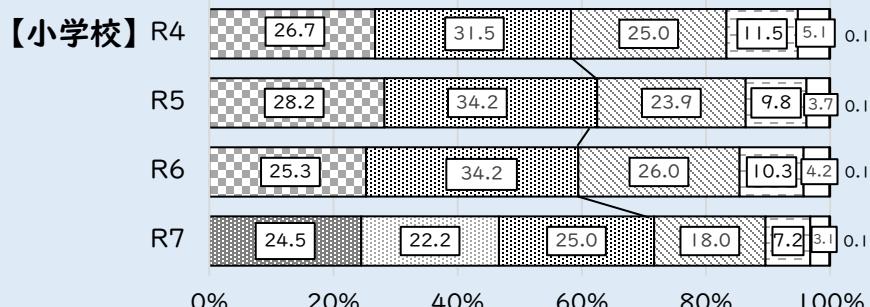
児童生徒質問項目[28]

「5年生までに受けた授業で(1、2年生のときに受けた授業で)、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」

PC・タブレットなどのICT機器を「週3回以上」よりも高い頻度で使用すると回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともに増加しています。



#### (参考) 全国の推移



### ③ 質問調査結果(児童生徒)【ICTを活用した学習②】

R7

#### 授業におけるICTの活用【個別最適な学び】【協働的な学び】

※ [ ] 内の数値は相関係数を示しています。

クロス  
集計  
(児童生徒)

#### [ICTの活用頻度] × [個別最適な学び]

児童生徒質問項目[34]

「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」

■当てはまる □どちらかというと、当てはまる

□どちらかというと、当てはまらない □当てはまらない

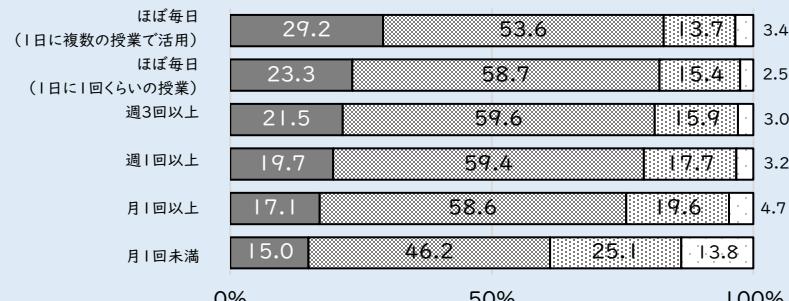
[0.130]

小学校



0% 50% 100%

中学校



0% 50% 100%

クロス  
集計  
(児童生徒)

#### [ICTの活用頻度] × [協働的な学び]

児童生徒質問項目[39]

「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」

■当てはまる

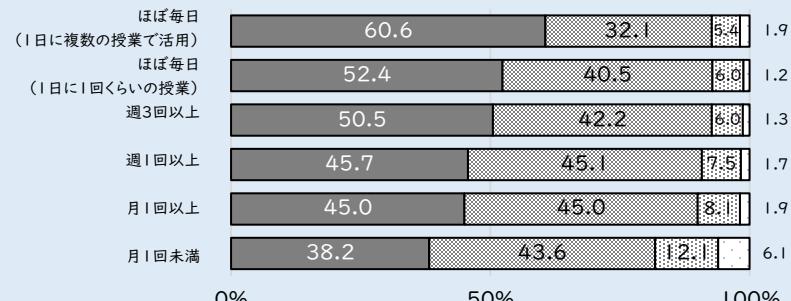
□どちらかといっとうと、当てはまる

□どちらかといっとうと、当てはまらない

□当てはまらない

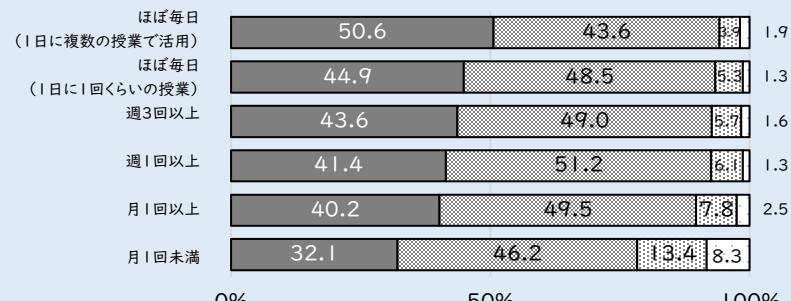
[0.129]

小学校



0% 50% 100%

中学校



0% 50% 100%

ICT機器の活用頻度が高いほど、個別最適な学びや協働的な学びに関する質問項目で、肯定的に回答している傾向が見られます。

児童生徒質問項目「28」  
P.C.タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」

